

本間文庫

表刺包之卷

一表刺の夏期印合と対敷

十二包あり小袖或は色こり

入もしたの尻ふうは縁女の

うさへ人々二りふさへ

あつ陽の包はたふさなり

むらの敷もぬんふさ

當世ハかや乃親式と

女中の用具まゝ一対

あふ子まゝあり

一守又き鏡多るふと

うしの内へ

と^殊身目と

表刺は

一也き唐織書愛

綾室

あつ



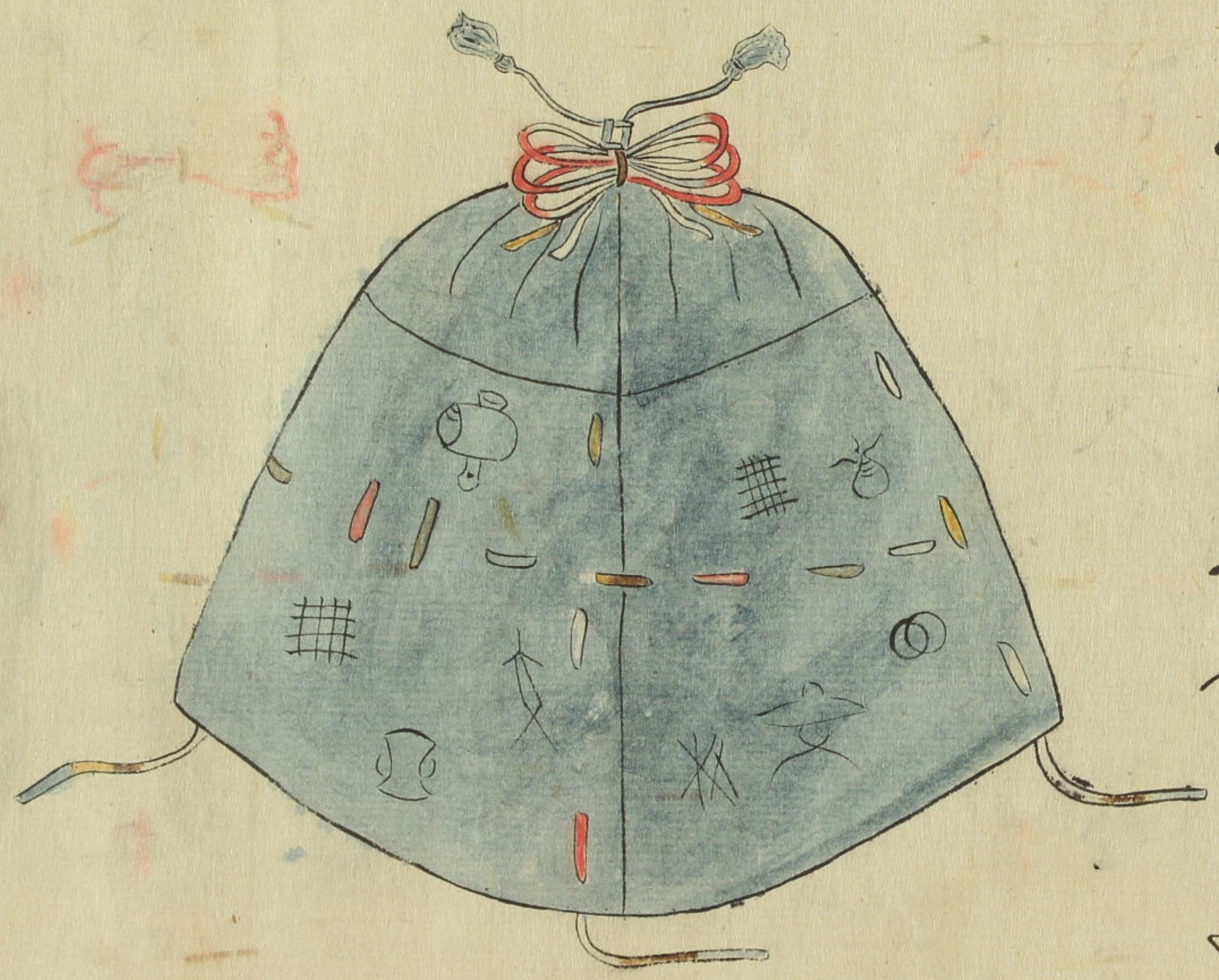
一也唐織書袋或はあつ板
 袋に書くしそのあつてな
 らぬと申す

風帯の板信圓のあつてな
 らぬ合からあつてはぬし

陽包しは此まへつて先とす

他し又書くおあつてはぬし

うつりおあつてはぬし



口のあつてはぬし

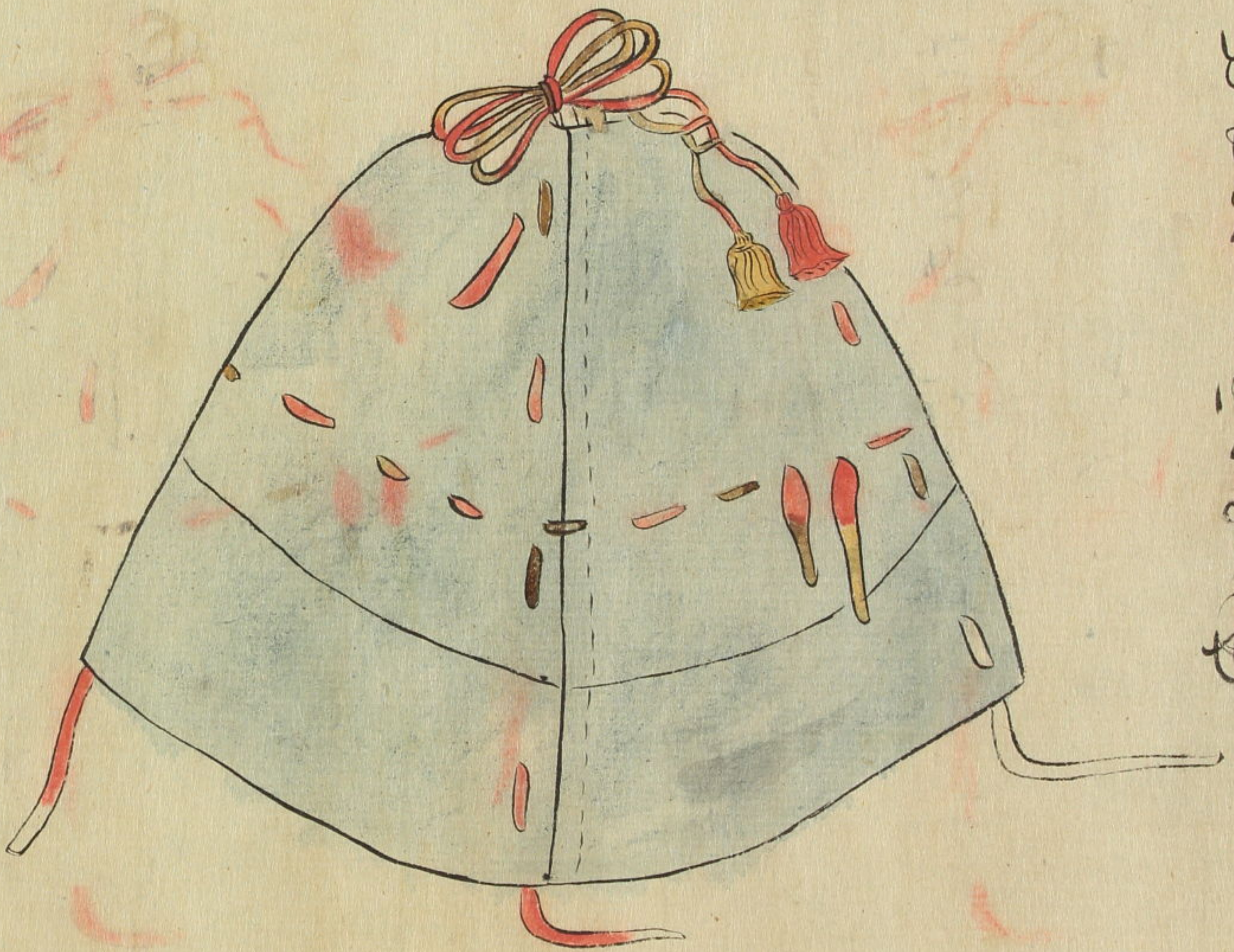
陰包さうとぬし

他し又書くおあつてはぬし

口のちりしきりしきりしきりしきり

陰色 ちりしきりしきりしきりしきり

ちりしきりしきりしきりしきり



かきしきりしきりしきりしきりしきり

そのかきしきりしきりしきりしきり

をきしきりしきりしきりしきりしきり

二天はしきりしきりしきりしきりしきり

のあしきりしきりしきりしきりしきり

一羽のしきりしきりしきりしきりしきり

あしきりしきりしきりしきりしきりしきり

あしきりしきりしきりしきりしきりしきり

一 湖のついでに野をとりあし一野をぬ
めりしと風のそよぶとく服をこも
まのこころをさへしむく風をく
めりぬる風をく

一 湖のついでに野をとりあし一野を
す野をさめぬしと風のそよぶとく
あはれをこもぬる風をく
一 裏き白生結一野をとりあし
くぬる風をく

一 風帯のそよぶとく服をこもぬる
めまよしと風のそよぶとく
このついでに野をとりあし一野を
ぬる風をく

一 風帯のそよぶとく服をこもぬる
緒のそよぶとく風のそよぶとく
一 湖のついでに野をとりあし一野を

一 風帯のそよぶとく服をこもぬる
一 湖のついでに野をとりあし一野を

月影の向ひ表のわのまゝあきしし
風帯のあゆり、片こゝろあすあを尻
こゝろは月影のまのまの細風帯を
あまのまのまの

一口のわりのわりのまのまのまのまの
うまのまのまのまのまのまのまの
あまのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの

一包のまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの

一包のまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの

一 風箏とつくたて横裏表くうし色
ゆふいとうの色と袋と子こ
袋のしきまはくしとて
大つこい色の糸のたか口のつらぬ
風箏法すめりう能やみん
はとん

右舟一卷を難為秘多流
少執ん深熟記進之辛あふ
う有知見え

二 復れ
三月廿日

水島ト也
後長
同年
日年
松岡清助
辰方

本間安一

松岡清助

辰方

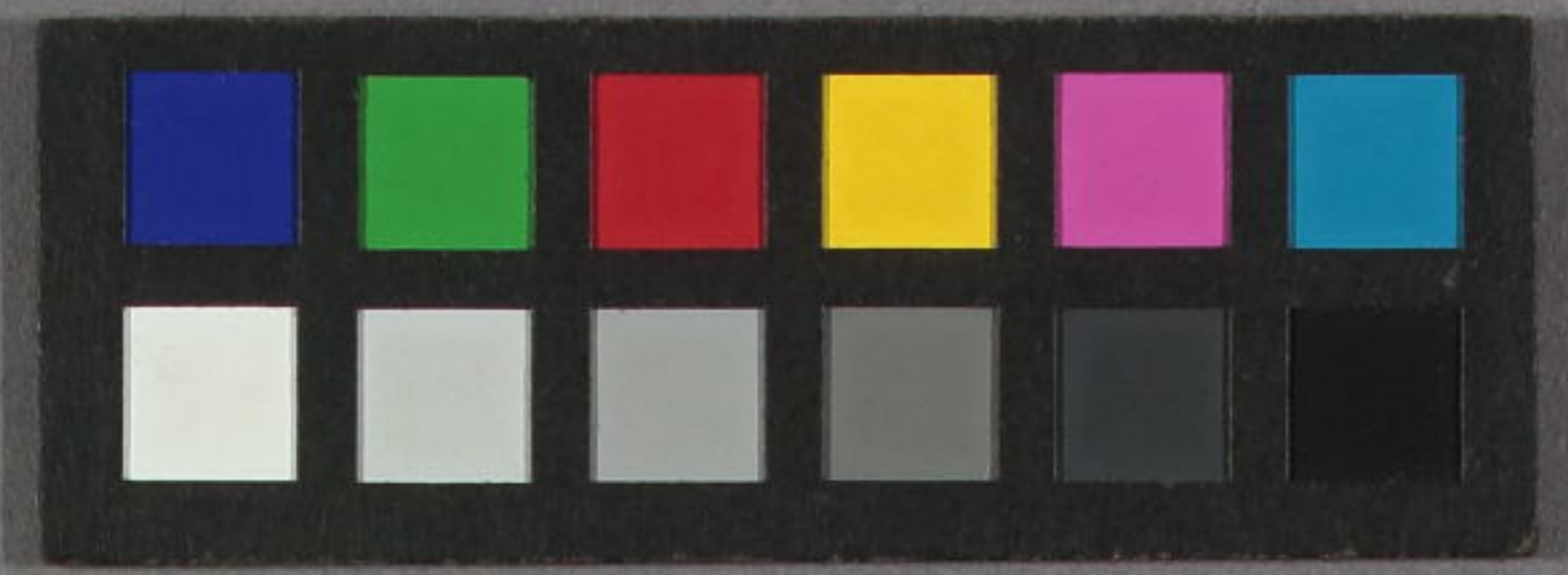
本間安一



松岡

文化七
仲冬上浣





73
3645
155

本問文庫



153

73
3645
155

Faint red markings on the right page, possibly bleed-through from the reverse side.